



2012年 交響詩劇「わが町、せんがわ」～サネアツさん～ 作・演出／末永明彦

市民参加演劇

みんなで創る、みんなが創る。
市民参加から生まれる演劇の形。

DATA

開始時期：2009年6月
開催回数：20回(うち演劇公演は5回)
のべ参加者数：743名
のべ観客数：3,321名
関わった市民サポーター数：437名
事業種類：舞台芸術を楽しむ市民の裾野拡大事業

※回数・人数などは2017年度終了時のものです

演劇のプロフェッショナルと一緒に、市民が主役となって創り上げる演劇のプログラム。近年はワークショップのシリーズと公演を隔年で開催しています(ワークショップのみの開催年も、必ず成果発表のステージを設けています)。

合言葉は、「みんなで創る、みんなが創る」。小学生から70代以上の方まで、プロもアマチュアも、年齢や性別も関係なく、一丸となって演劇に取り組みます。

市民が劇場や舞台芸術を身近に感じるきっかけであると同時に、貴重な多世代交流の場にもなっています。



- 2015年 音楽劇「わが町、ちょうふ ～こどもの王国～」脚本／七海凧、作詞・演出／末永明彦
- 2014年 歌舞史劇「わが町、せんがわ」～おらほの時代～ 作・演出／末永明彦
- ケーブルTV J:COM「テレビ広報ちょうふ」内の「せんがわ劇場ニュース」コーナーに出演。
- 舞台美術の大きな木の材料は、なんと割りばしと輪ゴム。稽古の合間に、みんなで作りました。
全写真：©青二才晃(市民サポーター)

三谷 六九 (俳優)

市民参加演劇のほか、せんがわシアター121出演、演劇コンクール専門審査員など、劇場事業に多数参加、劇場事業にも理解が深い。



私が参加させていだきました市民参加の作品は、正しく手作り、市民の方たちとの共同作業の賜物でした。本番はもちろん大事ですが、実は稽古を通して市民と劇場スタッフが一

つになる事こそが、一番意義のある事だと思います。これからもこの本質を守り、作品作りに励まれる事を願います。せんがわ劇場万歳。

参加者アンケートより

新しい仲間と出会うことができ、幅広い世代の方と交流できたことがなによりも嬉しい財産です。(2014)

来場者アンケートより

老若男女、大勢の人がつくりあげた一つの劇でこんなにも心が温まるんだと思いました。(2017)

元芸術監督・コーディネーター



元芸術監督
ペーター ゲスナー

2007年に桐朋学園の前学長蛭川幸雄の推薦と調布市長の願いで、私は1か月間で2008年2月にオープニングできるように、現実的なコンセプトを出しました。客席を固定にし、建物の名前（せんがわ劇場）を決め、主な演劇活動を決めて、安藤忠雄のアヴァンギャルドな建築に合わせた、日本で今までに少ない魅力的な内容を作りました。レベルの高い演劇公演、サンデー・マティネ・コンサート、JazzArt フェスティバル、人形演劇祭 Inochi、年末の子どものためのファミリー公演、演劇コンクールなど、予定どおりに2008年2月から少しずつ始まりました。その小さな劇場に非常にチャレンジングなコンセプトは、劇場スタッフだけでは人手が足りなかったため、調布市民から、市立劇場として初めて演劇と音楽活動経験者のセミボランティアを募り、せんがわ劇場のアンサンブルとして、この活動を一緒に立ち上げる事になりました。この考え方はせんがわ劇場のもと（Identity）です。



演劇・市民参加・地域連携コーディネーター
末永 明彦

地域の方々の想いで生まれた、せんがわ劇場。無限の可能性を秘めた劇場が誕生して、10年。せんがわ劇場の使命

市民参加の企画こそ、手間暇かけて丁寧に、専門的に、最高の環境を提供して行うこと。次代を担う芸術家が、より良き価値観を持つ芸術家となるように、継続的な支援、育成を行うこと。日本の公共劇場のスタンダードモデルを作ろうと、せんがわ劇場に関わる市民と専門家、そして行政が、いま、三者協働して取り組んでいる。



音楽コーディネーター
合田 香

せんがわ劇場は10周年を迎えました。仙川は、そう広くないエリアに桐朋学園大学、桐朋学園芸術短期大学、白百合女子大学と3つ

の大学があるという極めて珍しい地域性を持っています。しかし地域に拠点がなかったがために人々はこれらの大学の「文化力」を享受できずにいました。「音楽と芝居小屋による地域づくり」という考えによってスタートした「せんがわ劇場」は、単に公演を行うだけではなく、文化を育む気風を地域の組織や人々ともに創りあげたといつてよいでしょう。



音楽コーディネーター
松井 康司

建物ができる前から桐朋短大の学長室で、どうソフトを充実させていくか全くゼロの状態から話し合いをスタートさせた日々のが懐かしく思い出されます。

この10年を振り返ると、職員の皆さんを始めとする多くの方のご苦労により市民密着型の理想の劇場になってきていると感じています。時代が変われば変化も求められてきますが、これまでの経験が劇場の新たな発展に繋がって行くこと確信しています。



経営コーディネーター
間瀬 勝一

公立の劇場ホールには施設規模によらず4つの使命があると言われている。

それは、劇場を皆さんに使って頂くこと、文化芸術の鑑賞が出来る機会を作ること、文化芸術の良さを知り感じて頂くこと、劇場が優れた作品を創造して提供すること。せんがわ劇場は開館以来、この10年でその成果が見えてきた。次の10年に期待したい。



2018年「おらほ亭せんがわ落語会」本番終了後に、参加者と講師で記念写真。

伝統芸能ワークショップ

プロから学ぶ、本格派の落語ワークショップ。

プロの噺家に直接指導を受けながら落語を学ぶ。そんな貴重な体験ができる毎年恒例の人気企画です。

公募で集まった小学4年生から大人までの参加者たちが、講師の柳家三語楼師匠と相談しながら挑戦する演目を決定。三語楼師匠に加えて地元で活動する調布噺の会のみなさんの協力も得ながら稽古に励み、劇場で開催する落語会でその成果を披露します。

落語会では、ワークショップの参加者の発表だけでなく、柳家一門の本格的な落語も楽しむことができます。

DATA

- 開始時期：2009年10月
- 開催回数：9回
- のべ参加者数：376名
- のべ観客数：1,848名
- 関わった市民サポーター数：11名
- 事業種類：次世代を担う子どもたち育成事業

※回数・人数などは2017年度終了時のものです



伝統芸能ワークショップ 講師 柳家 三語楼 (噺家)

二ツ目・鈴ヶ舎風車時代から講師として参加。真打となった今も、子どもから大人までの受講者を温かく指導している。

ワークショップは年々申し込みが増え大盛況です。受講者の稽古や発表会で自分の高座以上に緊張し、学芸会の親御さんの気持ちを味わい、落語会では、反応の良いお客様の前で楽しく高座を勤めております。これもみな温かい調布の皆様のお陰です。皆様どうぞ劇場にご来場くださいませ。



2010年 第9回公演「オンディーヌ」作/ジャン・ジロドゥ、翻訳/二本麻里、演出/ペーター・ゲスナー

アンサンブル公演

市民とプロが共に創作する 新しい舞台のつくり方へのチャレンジ。

美術、音響、照明、衣装、制作、広報、宣伝デザインといった公演のスタッフワークから、日常的な劇場の広報活動やロビーの飾り付けまで。劇場に所属してさまざまな活動をおこなうボランティアの「市民アンサンブル」メンバーと、公募で集まったキャストやプロフェッショナルな俳優・スタッフが力をあわせ、質の高い作品を制作する。そんな「新しい舞台づくりの方式」を実現する試みが「アンサンブル公演」です。

舞台芸術を志す人が集い、より成長する場として、12回の公演がおこなわれました。

DATA

開催時期：2008年6月～2012年12月
 開催回数：12回(うち2回は「親と子のクリスマス・メルヘン」として実施)
 のべ参加者数：588名
 のべ観客数：10,360名
 事業種類：舞台芸術を楽しむ市民の裾野拡大事業

※回数・人数などは2017年度終了時のものです



- 2009年第4回公演「THE WINDS OF GOD ～零のかなたへ～」原作・脚本・演出/今井 雅之 ©加島和彦
- 2008年第1回公演「愛ってなに？」作/テアトル・ローテ・グルツツェ、翻案・脚色/ジェームス三木、演出/ペーター・ゲスナー
- 2008年0番目企画「時の物置」作/永井愛、演出/ペーター・ゲスナー
- 2009年第8回公演「新羅生門」作・演出/横内謙介 ©青二才晃 (市民サポーター)

来場者アンケートより

たくさんの方々の力が合わさって一つの舞台ができているのがよくわかった。とても素敵な場所だと思った。大切にしてください。(2012)

俳優陣のレベルの高さにひきこまれました。不思議な形のステージなのに、声も良く聞こえ、照明も躍動的で、本もよいし、とにかくびっくりすることばかり！地域が育てた公演でコレはスゴイ！(2010)

真那胡 敬二 (俳優)

初期の公演から多数出演しているほか、演劇コンファレンスの専門審査員を2度務めるなど、せんがわ劇場との縁の深い俳優の一人。



08年「時の物置」
 09年「星の王子さま」
 10年「オンディーヌ」とオープンから3年続けて出させていただきました。当時、芸術監督ペーター・ゲスナー氏の情熱が人々を巻き込み、いろん

な奇跡を起こしていました。特に「時の物置」は格別ですね。永井愛さんも感動して下さいましたよ。



2011年第2回より progressive note 6「音霊=おとだま=」
genre:Gray 利己的物体と奉仕的肉体によるグロテスク Ku in Ka

人形演劇祭 “inochi”

いのちの本質に
人形をとおして迫る
人形演劇のフェスティバル。

DATA

開催時期：2010年1月～2013年2月
開催回数：4回(+2014年に単発の
人形演劇公演を実施)
のべ参加者数：311名(単発公演を含む)
のべ観客数：2,842名(単発公演を含む)
関わった市民サポーター数：26名
事業種類：舞台芸術を楽しむ市民の
裾野拡大事業

※回数・人数などは2017年度終了時のものです

あらゆる世代に向けた芸術的な人形演劇のフェスティバル。そんな日本では他に類を見ない試みが、2010年から4回にわたって開催されました。

大がかりな演劇には向かないせんがわ劇場も、人形演劇にはぴったりのサイズであることに目をつけた芸術監督(当時)のペーター・ゲスナーが発案。国際的な視野から「inochi」と名付けられ、海外でも活躍するアーティストが多数参加しました。また、参加アーティストが、これをきっかけにアンサンブル公演や JAZZ ART へ出演するなど、新たなコラボレーションも生まれました。

プロデューサー

玉木暢子、黒谷都(～第3回)、松井憲太郎(～第3回)

参加団体

ake_miya、大井弘子、ツヂバデルコ、たまにゃんカンパニー(映像)、人形舞台yumehina、れもん座、塚田次実、森田晋玄、genre:Gray KUROSOLO 番外、渡邊世紀(映画)、sound office 音旅舎、genre:Gray 原田依幸+黒谷都、ヂバドロ・アノ、NORISAWA、ながめくらしつ、バーバラ村田と音の人、劇団かかし座、チェオボン、genre:Gray Ku in Ka progressive note 6、人形劇団ひとみ座、人形劇・トロッコ、genre:Gray unco happy!、かわせみ座、百鬼ゆめひな、JIROX DOLLS SHOW、KUROSOLO 壱番、人形劇団パン、Puppet Theater ゆめみトランク、人形劇団ココン、影絵人形劇団みんな座

プロデューサー 玉木暢子(人形遣い)

第1回からプロデューサーとして参加。フェスティバル全体をリードしながら、制作実務などもこなし、あらゆる面で人形演劇祭を支えた。



「人形による現代の舞台表現」のフェスティバルは日本では前例がなく、あちこちで評価された反面、大変だった思い出は星の数ほど。あれは夢の時間だったに違いありません。やり残し感もあった時から5年たちました。当時の出演者の多くが、国内外で羽ばたいて活躍中です。



その他の事業

多彩なプログラムで劇場を身近な存在に。

他にもこんな事業がありました

- ・仙川・まちなかコンサート
「仙川の街を散歩しながら、気楽に音楽に触れる一日」がコンセプトの無料コンサート。商店街など、仙川のまちなかがステージに。
- ・エントランス企画
市民アンサンブル(当時)が企画の中心となり、劇場活性化のために玄関口にてプロによる紙芝居などをおこなった。

毎年、夏休みの恒例となっているのが、子ども向けワークショップです。芸術表現のプロとして活動するアーティストを講師に、公募で集まった子どもたちが協力しながら公演を創り上げます。年齢や学校の違う子どもたちとの創作過程をとおして、子どもたちは自分の可能性や表現活動の楽しさと出会います。

また、過去には、一線で活躍するアーティスト・劇団を招いた「招待公演」や若手育成に特化した「新進芸術家育成公演」なども実施。そのほか、劇場を地域に開放したさまざまなイベントも実施しています。

■ 2013年新進芸術家育成公演「彼女の素肌」作/レベッカ・レンカヴィッツ、訳/常田景子、演出/西川信廣
■ 2015年夏休み子ども表現ワークショップ「何が出てくる?ダンスおもちゃ箱!」講師/佐川大輔
■ 2015年音楽劇「橋を渡る」原作・台本構成/七海皿、演出/横山由和
■ 2018年仙川・まちなかコンサート(10周年記念事業)
右下以外: © 青二才児(市民サポーター)



2014年おらほせんがわ夏まつりで「アナと雪の女王」の曲に合わせて、劇場提供の衣裳をまとしてパレードしました。©青二才晃（市民サポーター）

地域連携事業

にぎわいと文化を生み出す 地域に根ざした劇場づくり。

劇場のある仙川地域のにぎわいと文化の活性化に貢献することを目的に、2009年より地域の学術機関や商店街と連携した事業をおこなっています。

地域の商店街が主催する「おらほせんがわ夏まつり」では、市民サポーターが中心となって劇場空間を活かした体験型のプログラムを毎年実施。日頃劇場に来ることのない市民が、劇場に足を運ぶきっかけになっています。

また、仙川地域にキャンパスをもつ桐朋学園大学・桐朋学園芸術短期大学や白百合女子大学の学生たちによる公演も劇場ホールで毎年開催しています。

DATA

開始時期：2009年8月
開催回数：31回
のべ観客数：11,885名
関わった市民サポーター数：405名
事業種類：地域の芸術文化ネットワーク創造事業

※回数・人数などは2017年度終了時のものです



2017年おらほせんがわ夏まつり「ロールプレイング劇場」。物語仕立てのバックステージツアーは大人気。案内も出演も市民サポーターやボランティアです。©青二才晃（市民サポーター）

- 桐朋学園芸術短期大学の公演。プロを目指す学生たちの熱気があふれます。
- 白百合女子大学の学生による、子どもたちにむけての公演。



佐川 大輔

(演出家、俳優、「THEATRE MOMENTS」主宰)

第4回演劇コンクールグランプリを機に、さまざまな劇場事業に積極的に参加。市民サポーターが中心となる「おらほせんがわ夏まつり」でも、市民と共に、企画から当日運営まで盛り上げている。



僕の演劇の原体験は、幼少時の夏祭り。そんな僕が祭りを作る側になるとは。おらほせんがわ夏まつりのコンセプトは「地域市民、アーティスト、そして、劇場の三者がハッピーになる」こと。毎年試行錯誤ながら、少しずつ形になってきたかと。これからも各々の立場を超えて、祭りという非日常を楽しみましょう！だって、ここは劇場なんだから。

来場者アンケートより

(RPGの手法で劇場内を探索するプログラムに参加して)子供が勇者の気分になれるかな?と思ったのですが、とても雰囲気がかちんと創られていて最初少し怖かったみたいです(^^)でもとても楽しんでいて、2、3日思い出しては話していました。(2018)

(夏まつり「うたごえサロン」で)いつも大きな声で歌う事がないので素敵うたを沢山お腹から声を出して歌えました。楽しい一時を過ごせてありがとうございました。(2015)



演劇アウトリーチ。遊びながら、絵本の世界を身体で体験しています。



音楽アウトリーチ。演奏を聴くだけでなく、楽器に触れることで、より深く興味を抱くことができます。

アウトリーチ

劇場も地域も、アーティストも。
芸術をとおしてつながり、育て合う場。

DATA

開始時期：2014年1月
開催回数：35回
のべ参加者数：5,798名
関わった市民サポーター数：479名
事業種類：舞台芸術を楽しむ市民の
裾野拡大事業

※回数・人数などは2017年度終了時のものです

市内の小学校や児童館といった劇場以外の場所にアーティストが出向き、子どもたちが芸術表現にふれる機会をつくるせんがわ劇場のアウトリーチ。この事業の担い手となっているのは、演劇コンクールの入賞者や桐朋学園大学の学生など、次世代アーティストたちです。

2018年には、これまでに培ってきたワークショップなどのノウハウを共有し、さらなるスキル向上やプログラム開発をおこなう「ドラマ・エデュケーション・ラボ」も発足。劇場と地域、そして若手アーティストがつながり、それぞれが成長するモデルが生まれつつあります。



- ワークショップのスキル向上をめざし、海外から講師を招くこともあります。
- コミュニケーションワークショップが、まだお互いをよく知らない新入生が仲よくなる一助になっています。
- 演奏や楽器についての質問が、子どもたちからたくさん飛び出します。
- アウトリーチの前には、真剣な打ち合わせや振り返りが行われています。

参加者アンケートより

「自分を表現する」ということがこんなにも楽しいことだと思えるようになりました。1年生のとき苦手だった「人の前で話す。発表する」ということも、アウトリーチの時間を通して少しずつですができるようになりました。(2017)

演劇を本格的にやりたいと思った。(2014)

来年も(学校でのアウトリーチの時間があるなら)参加したい。(2014)



柏木 俊彦
(演出家、俳優、「第0楽章」代表)

プレシーズンから俳優として劇場事業に関わっていたが、第4回演劇コンクールへの出場を機に、アウトリーチにも初期から参加、チームをリードしている一人。

演劇をツールとして教育機関や施設に向かうワークショップ。「芸術と社会のつながり」そして「私たちは何ができるのだろうか?」と日々考えています。時間も労力もか

かりますが、参加者の笑顔や成長に立ち会えた瞬間は、作品が成就した時と同じくらい幸福な気持ちになります。

せんがわ劇場のあるまち、仙川



キューピー仙川キューポート

研究開発機能とグループのオフィス機能をあわせ持ち、マヨネーズについて学べる見学施設マヨテラスもあります。平成27年の市民参加演劇公演では、キューピー株式会社にロビー展示等にご協力いただきました。



桐朋学園

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、短期大学、大学などからなる学園です。せんがわ劇場開館前から関わりが深く、地域連携事業として短大・大学の学生が演劇や音楽の公演を行ったり、サンデー・マティネ・コンサートに出演したりしています。



調布市武者小路実篤記念館

実篤の本、絵や書、原稿や手紙、実篤が集めていた美術品などを所蔵し、文学や美術などいろいろなテーマによって展示会を開催しています。平成24年の市民参加演劇公演では、実篤に関する情報提供や講座開催などにご協力いただきました。



白百合女子大学

文学部、人間総合学部、大学院、6つの付属機関があり、知性と感性との調和のとれた女性の育成を目指しています。せんがわ劇場との地域連携事業では、児童文化学科による子ども向けの作品などの公演を実施しています。



仙川商店街

約200店舗が加盟する商店街です。協同組合主催でイースターやハロウィンなどのイベントも実施しています。最大のイベントおらほせんがわ夏まつりでは、地域連携事業としてせんがわ劇場でも催しを行っています。



仙川駅前

春には、仙川駅の改札を出ると満開の桜がお出迎えます。この桜は、市民の署名活動によって伐採を免れたことでも有名で、夜はライトアップされ、毎春には夜桜コンサートが行われる、仙川のシンボルです。

劇場からの情報発信



劇場からの情報を届ける広報メディア。

せんがわ劇場では、公演・イベント情報はもちろん、舞台裏の様や出演アーティストのインタビューなど、芸術をより身近に感じられる情報を発信しています。

オンラインでの情報発信のハブとなるのは、公式ウェブサイト。Twitter アカウントや Facebook ページ、YouTube チャンネル、公式ブログと連動させながら、多面的な劇場の姿を発信しています。

一方、イベント情報を載せた「月刊カレンダー」や広報紙「せんがわ劇場 NEWS」、市民サポーターが編集する「121 press」など、印刷メディアも発行しています。

せんがわ劇場の主な広報メディア

公式サイト	121 press
公式ブログ	市報 ちょうふ
Twitter (@SengawaG)	JCOM「テレビ広報ちょうふ」内「せんがわ劇場ニュース」
Facebook ページ (@sengawagekijo)	調布 FM (CM・番組出演)
YouTube チャンネル	
劇場前デジタルサイネージ	
月刊カレンダー	
広報紙「せんがわ劇場 NEWS」	



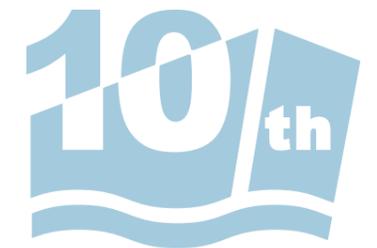
せんがわ劇場 HP



TWITTER



FACE BOOK



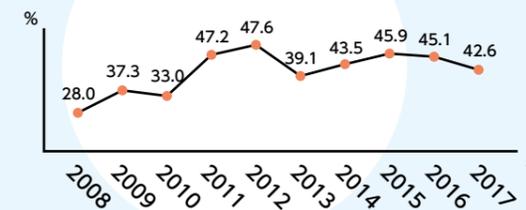
施設概要



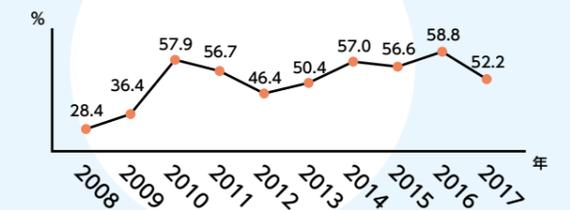
貸館データ

2008-2017

● これまでのホールの施設貸出利用率は…



● これまでのリハーサル室の施設貸出利用率は…



ホール、リハーサル室ともに増減しながら増加傾向にあります。

※施設貸出の他に劇場事業での使用があります。

施設概要

地域とのつながりを劇場設置目的の一つとし、施設自体がまちの顔となり、地域の街並みや景観と一体となるよう、コミュニティ施設と保育園等が併設されています。

名称	調布市せんがわ劇場
所在地	調布市仙川町1丁目21番地5
規模	鉄筋コンクリート3階建 延べ床面積：1,255平方メートル 仙川保育園・仙川ふれあいの家・防災備蓄倉庫併設 ホール：188平方メートル リハーサル室：42平方メートル
休館日	毎月第3月曜日及び年末年始（12/29～1/3）
開館時間	午前9時～午後10時
ホールの特徴	・演者の表情や息遣いが身近に感じられ、観る者と演ずる者が一体となった感覚を味わえる空間（アットホームな空間） ・残響時間が約1.0秒で細かな音が聞き取りやすい（演劇向け） ・客席の変形が可能（ひな壇式121席 ↔ 平置き式162席） ・スタインウェイ&サンズ社 グランドピアノC-227を設置



● 登録団体数の累計は、

1081 団体

地域	市内団体 749 団体	市外団体 332 団体		
ジャンル	音楽 485 団体	演劇 292 団体	舞踊 181 団体	その他 123 団体

● ホールの使用

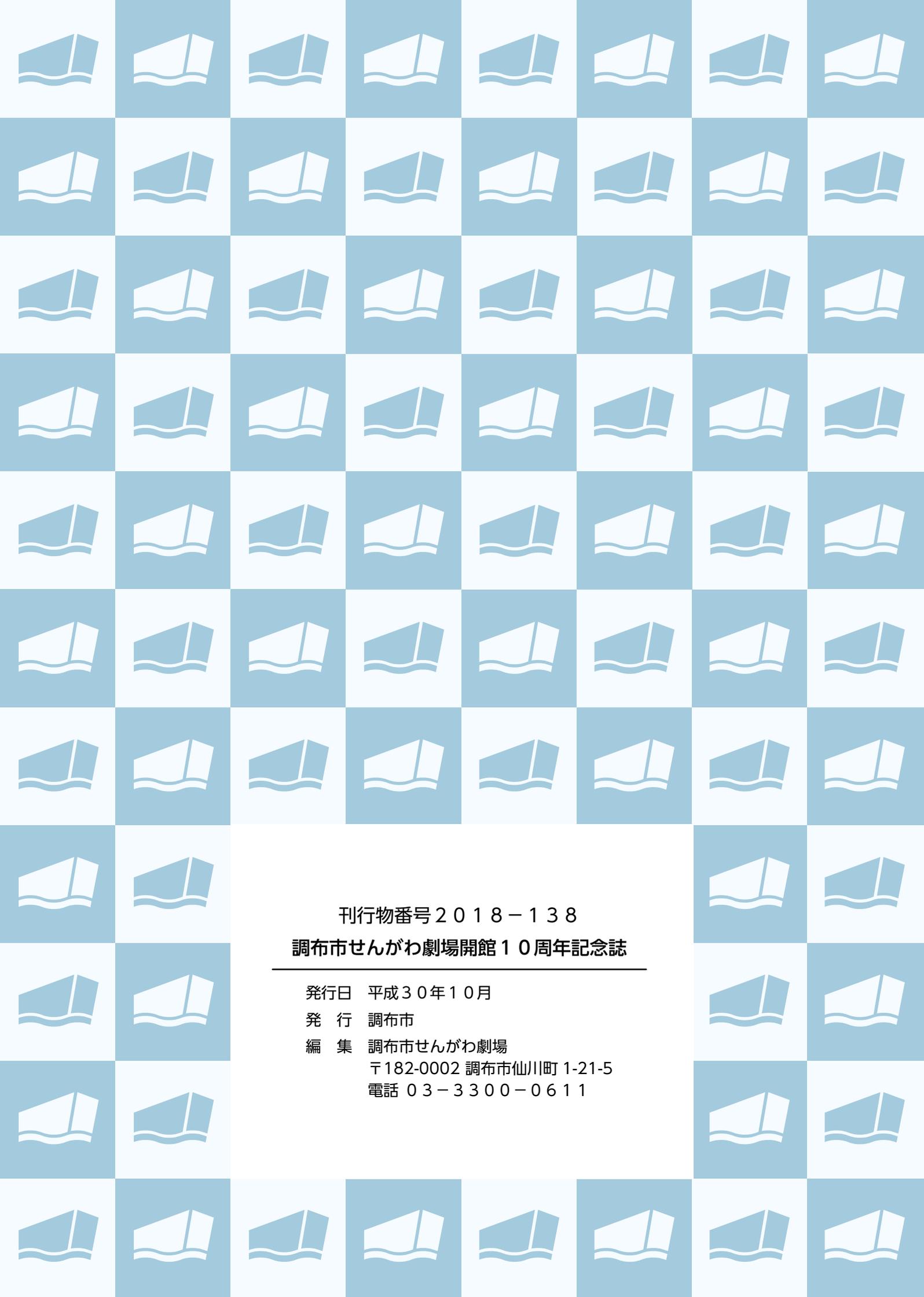
演劇公演では3日以上長期利用が多いため、演劇での使用が多くなっています。

	演劇	音楽	舞踊	単位：区分
2015	219	174	63	
2016	223	189	39	
2017	259	128	33	

● リハーサル室の使用

防音の部屋で、大きな鏡もあり、舞踊での使用が多くなっています。

	演劇	音楽	舞踊	単位：区分
2015	159	140	271	
2016	89	163	335	
2017	83	157	286	



刊行物番号 2018-138

調布市せんがわ劇場開館10周年記念誌

発行日 平成30年10月

発行 調布市

編集 調布市せんがわ劇場

〒182-0002 調布市仙川町 1-21-5

電話 03-3300-0611